



2026年6月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとん
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

おやつ会で使用するイチゴを丁寧に切っています。



有機的な情報 理事長 貝沼 寿夫

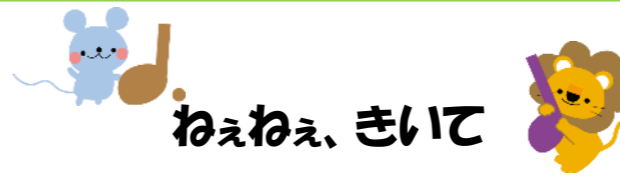
経営に必要な資源として、ヒト・モノ・カネ・情報の4つが挙げられるのを皆様も耳にされたことがあるのではないのでしょうか。

最近の技術の進歩には目を見張るものがあります。特にAIの発展は目覚ましく、スマホやパソコンに問いかければ、いつでも瞬時に「正解」らしき回答が得られる時代になりました。知りたい情報がすぐに手に入る利便性は、私たちの生活や仕事を確実に変えつつあります。しかし、経営者として、また福祉に携わる一人の人間として、この利便性の裏側にある変化に、一抹の危惧を抱くこともあります。それは、「すぐに答えが見つかる」がゆえに、私たちがじっくりと「考える」というプロセスを省いてしまうのではないかと、ということ。また、AIが提示する明快な回答に慣れてしまうと、物事を「○か×か」「正しいか間違いか」という二分法で捉えがちになります。現にAIが出した○とされるものを逸脱すると、途端にその人を非難したり攻撃する人もいます。こうした「答えを急ぎ、白黒つけたがる」傾向が、無意識にも私たちの組織や日常のコミュニケーションの中でも、悪い影響を与え始めていると感ぜられます。かつては、必要な情報があれば本を読み、あるいは詳しい人に頭を下げて教えていただくこともありましたが、ここには「答えにたどり着くまでの「時間」と、人との「交わり」が必ず存在していました。非効率に思われ

るそのプロセスこそが、実は人と人とを繋ぎ、互いの知恵や経験を深く分かち合う貴重な機会になっていたと感じています。知的障害のある方への支援においては、一人ひとり感じ方も違えば、安心できる環境も違います。同じ言葉をかけても、受け止め方はそれぞれです。「これが正解」という一つの答えだけでは支援は成り立ちません。だからこそ大切なのは、「情報」を単なる知識として扱うのではなく、「人を理解するための手がかり」として活かすことだと思います。例えば、ご家族が長年の生活の中で知っていること、地域の方が気づいている小さな変化、職員が日々の関わりの中で感じていること。そのどれもが、とても大切な情報です。そして、それらはAIやインターネットだけでは得られない、生きた情報です。私たちは、その一つひとつを丁寧に繋ぎ合わせながら、その方にとってより良い支援を考えていかなければなりません。また、経営という側面から見ても、「情報の価値はますます大きくなっています。ただし、数字やデータだけを見ていても、本当に必要なことは見えてきません。現場で働く職員の声、利用者さんの表情、ご家族の思い、地域との繋がりが。そうした人と人との中にある情報こそが、法人の未来を支える力になるのだと思います。そして、情報が簡単に手に入る時代だからこそ、「誰と・何と繋がるか」「どんな思いを共有するか」が、より重要になるのではないのでしょうか。

かわとん ~NEW 制服お披露目~

昨年10周年を迎えたふわっとん！
この度制服をTシャツスタイルにチェンジしました🌟
たんぽぽさんに依頼をして、素敵な制服に仕上げてくださいました♪
渋めでクールな緑色の生地、左袖と背中のロゴがとっても魅力的です！



ねえねえ、きいて

生活支援員 鈴木 麻椰

いつも支援者の手伝いを行ってくださるAさん。朝食が始まってもし起きて来なかった為、居室を見に行くとすやすやと寝息を立てていました。いつも働き者のAさんもこぶしに入所され13年程。こぶしが安心できる場所になったのだと思い、寝ている姿にホッコリしました！



キラリ☆と光るこの一枚



ミシュラン級のこぶし特製シフォンケーキにご満悦★ (小畑 満月)

今の自分にできること

今年の4月で自分の支援員としてのキャリアも2年目に入りました。そこで「今の自分には何ができるのか」を考える時間が圧倒的に増えたように感じます。2年目の新しい発見、周りの方の支援への考え、まだまだ様々な刺激を受け、さらに新しく課にも配属され、仕事量が一気に増えた今、1年目より数倍も濃い日々を送っています。そこを楽しいと思えるのも自分の強みであり、当然のように1年目よりも増える楽しみをこれからも感じて支援に当たっていこうと思います。

ここで問題となるのが冒頭でも挙げた「自分に何ができるのか」であり、そこに「2年目として」という責任とプレッシャーも乗っていますが、「利用者さんの地域参画」ということを大きく掲げる自分にとっての支援とは何なのか、今の自分にどういった支援ができるのかを考えつつ、これからの支援者としての自分が「楽しく支援をする」ということを大事に、日々を過ごしていこうと思います。

生活支援員 鈴木 理斗

フォトニュース ～5月の様子～

♪活動・余暇♪



熱中症対策

今年も梅雨の時期がやってきました。ジメジメとしてあまり良いイメージがない季節ですが、こぶしの窓の外には綺麗な紫陽花が咲き乱れる時期でもあります。そんな梅雨が明けると暑い季節がすぐにやってきます。

天気や気温がコロコロと変わる時期は、身体的にも精神的にも不調が出やすい季節になります。6月は湿度上昇や気圧の変化で体調不良になる人が多いそうです。特に湿度が上がることで汗が蒸発しにくくなり、体温コントロールが難しく、熱がこもって熱中症になる人が近年増加しているそうです。

熱中症対策と言えば、こまめな水分補給と塩分補給が思い浮かぶ人も多いと思います。他にもエアコンや扇風機を使って温度や湿度の管理をすることも効果的です。また、日常的に湯船につかる、少し汗をかく運動をするなど、体を暑さに慣らすことも対策になるそうです。

利用者さんはもちろん、職員や自分自身の体調管理の問題は、施設の課題だと思っています。こぶしの館内は、一定の温度と適切な湿度を維持できるように努めています。職員には注意喚起や対策を伝えています。対策を伝えることで、職員自身はもちろん利用者さんの体調管理にも繋がっています。

対策についていろいろと調べて自分自身を振り返ってみると、年を重ねるごとに汗をかく運動をしなくなっていることに気づかされました。数年前に友人の勧めでバレーボールを始めたのですが、最近はその日のことを考えて参加しないことも増えていました。

そこで今回を良い機会だと捉え、久しぶりにバレーボールに参加して汗をかいてきました。また、エアロバイクを買って、家でも適度な運動ができるようにしてみました。この適度な運動をして汗をかくことが、熱中症にどれほどの効果があるかわかりませんが、対策をしないより良いのかなと思っています。なにより、体を動かすことでストレス発散や健康維持につながるの、継続的に続けていければと思います。

何事もそうですが、対策を知るだけでなく、実行することが大切です。暑い季節を元気に乗り切れるように、こぶしでも熱中症対策を実行していきます。

フロア支援部 部長 高野 竜

「フードドライブ」にご協力ください！

『フードドライブ』はご家庭で余っている食料品をお持ちいただき、必要とされている方にお届けする活動です

受付期間：令和8年6月8日(月)～6月19日(火) 受付場所：ライフパートナーこぶし 事務室

※詳細はこぶしホームページをご確認ください。



こぶし医務通信 6月号



毎年暑い夏ですが、2026年の夏は全国的に平年より暑く猛暑日や40℃以上の「酷暑日」が発生しやすくなる予想です。梅雨明けも早くなりそうですので、しっかり熱中症対策をしましょう。

こまめに
水分補給を



適度な
塩分補給を



エアコンを上手に
活用しよう



日傘や帽子を
忘れずに



声を
かけ合おう！



マスク熱中症に
注意！



医務 新井 朋子



一人ひとりと向き合う

今年度がスタートし三ヶ月が経とうとしています。少しずつ日々の流れに慣れてきた頃ではないでしょうか。

私は今年度研修研究課の一員として、研修の計画管理やスキル向上の為の仕組み作りなどに携わっています。日々の支援に加え、人を育てることに向き合う中で、その奥深さを実感しているところです。

支援の基本と同じように、まずは相手を知ることから始めてみようと思い、これまで以上に一人ひとりに目を向けるようになりました。言葉の持つ力や難しさを感じながら関わる中で、言葉一つでも受け取り方は人それぞれであり、その繊細さを感じています。そうした中で『今日はこんな一面を知ることができた！』と嬉しく感じる日もあり、それが今のやりがいになっています。

支援は一人で完結できるものではない為、これからも一人ひとりとの関わりを大切にしながら、チームこぶしとして共に成長し続けたいと思います。

生活支援員 増田 沙織